

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる、地域に根ざした学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。
3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量を高め、ものづくり教育の充実を図る。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった社会に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな社会性をもった人間の育成

- (1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心を育成するとともに、社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識を醸成する。
 - ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。
※6年前の平成18年度には7000を超えていた遅刻数は、平成24年度には1076と大幅に減少した。平成27年度までに1000にし、維持する。
- (2) 美化・清掃活動の強化を通して、個々の生徒の規範意識の醸成と情緒の安定を図る。
 - ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度（平成24年度59%）を毎年2%引き上げ、平成27年度には66%にする。

2 確かな学力への取り組み

- (1) 「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。
 - ア 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用して基礎学力の定着を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。
※生徒向け授業アンケートにおける満足度（平成24年度88%）を維持する。

3 ものづくり教育の充実

- (1) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。
 - ア 保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。
※資格の取得者や検定試験の受験者数（平成24年度1216人）及び合格率（平成24年度61%）を維持する。
- (2) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。
 - ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。
※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計（平成24年度10回）を増やし、平成27年度には13回にする。
- (3) さまざまな活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざす。
 - ア 豊かな創造力や問題解決能力の育成を図るなど、起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」をいっそう推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。
※平成24年度に会社（LLC法人）となった「城工房」において、新たな取組みを推進する。
 - イ 地域－保護者－学校が一体となった学校づくりを行う。
※本校PTAと連携しながら、地域貢献を視野に入れた新たな事業に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成25年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p><生徒と教員ともに肯定的な回答が少なかった1項目></p> <p>・「校内の清掃は行き届いていると思いますか」について、肯定的な回答が、生徒では54%、教員では53%となっている。特に、廊下・階段が課題と指摘されている。校舎の出入り口付近にある下足室（ロッカー室）ではなく、各階のそれぞれの教室の前で下靴から上靴に履き替えるシステムを採用していることが大きな原因と考えられる。しかし、システムの変更は困難だと思われるので、現システム下での改善を模索していきたい。</p> <p><生徒と教員の回答に隔たりがあった2項目></p> <p>・「学力が身についた」と回答した生徒は76%であるのに対し、教員は37%となっている。生徒は実習に教員は座学に重点を置いて回答しているようである。座学の授業の充実を図る必要がある。</p> <p>・「授業は分かりやすく楽しい」と回答した生徒は52%であるのに対し、「分かりやすい授業を行うため、創意工夫を凝らしている」と回答した教員は93%であった。教員の努力が結果に結びついていない原因を分析する必要がある。</p> <p><その他></p> <p>・「先生は校則を守らない生徒や生活態度の悪い生徒に対して、注意している」と回答した生徒の割合は、全設間中二番目に高かった。学校全体で生徒指導に取り組んできた成果といえる。</p>	<p>第1回（5月22日）</p> <p>①工科高校における人材育成の重点化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校のめざすべき学校像を明確にすること」「この重点化に対する中学校へのアピールが重要である」など、多くの貴重な意見が出されました。 <p>②学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の状況を踏まえた分かりやすい計画であり、工科高校における人材育成の重点化にもつながる取り組みも多く含まれている」との意見が出され、協議の結果、了承されました。 <p>第2回（10月9日）</p> <p>①学校経営の自己評価（中間報告）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当初の目標以上の成果があがっており、全般的に評価できる。後半も頑張ってもらいたい。」との意見が出され、協議の結果、了承されました。 <p>②学校教育自己診断の診断内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昨年の提言を踏まえた改良がなされている点は評価できる」との意見が出され、協議の結果、了承されました。ただし、「2つの項目の回答内容を再考するべきだ」との意見が出され、実施までに検討することになりました。 <p>第3回（1月29日）</p> <p>①学校経営の自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当初の目標以上の成果があがっており、全般的に評価できる。」との意見が出され、協議の結果、了承されました。 ・「4月当初に、資格・検定に関する情報を保護者に知らせてほしい。」との意見が出されました。 <p>②学校教育自己診断の診断結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者の回収率に比べると、教員の回収率を増やす努力をすべきである。」との意見が出されました。 ・「アンケート結果を今後どう反映させていくかが大切。良かった点も悪かった点も校長だけが分析するのではなく、教員一人ひとりが分析し自己評価するべきである。」との意見が出されました。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな社会性をもった人間の育成	<p>(1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心の育成と社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識の醸成</p> <p>ア 「笑顔のあいさつ運動」の推進</p> <p>イ 遅刻指導の推進</p> <p>(2) 美化・清掃活動の強化を通じた、個々の生徒の規範意識と情緒の安定の醸成</p> <p>ウ 全校的な美化・清掃活動</p>	<p>ア・毎朝校門で校長と教職員が実践するとともに、集会のたびに必ず「笑顔のあいさつ運動」を取り上げ生徒の意識を喚起する。</p> <p>イ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年による早朝登校指導を実施する。</p> <p>ウ・美化・清掃活動に全校で取り組む中で、生徒の規範意識と情緒の安定を醸成する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「あいさつ」への肯定率 26% (平成 24 年度 24%)</p> <p>イ・遅刻数 1000 (平成 24 年度 1076)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断の校内美化に関する項目における満足度 61% (平成 24 年度 59%)</p>	<p>ア・「あいさつ」への肯定率は 36%であった。目標の 26%を達成することができた。次年度も地道に取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>イ・生活指導部と各学年による早朝登校指導が実を結び、遅刻数は 741 に減少した。目標の 1,000 を達成することができた。次年度も全校あげて取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>ウ・保健部、生徒会、漫画研究部などが有機的に連携しながら取り組んだが、満足度は 54%に止まり、目標の 61%を達成することができなかった。来年度は、新たな視点で改善策を模索していきたい。(×)</p>
2 確かな学力への取り組み	<p>(1) 「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善への取り組み</p> <p>ア 基礎学力の定着</p> <p>イ 授業改善の推進</p>	<p>ア・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業の援助により「学び直し教材」や「基礎学力診断テスト」を導入し、基礎学力の定着に努める。</p> <p>イ・授業公開期間中に若手教員を中心とする勉強会を実施し、若手教員の育成の場とする。また、生徒による授業アンケートの結果から見えてくる課題について各教科・系で検討し、授業改善に反映させる。</p>	<p>ア・基礎学力診断テストにおいて、「高校卒業で就職した場合、企業から要求される学力」レベルに達していない生徒の 10%削減および最下位層の 50%削減</p> <p>イ・生徒向け授業アンケートにおける満足度の維持 (平成 24 年度 88%)</p>	<p>ア・目標の 10%削減に対し 8%の削減、50%削減に対し 50%の削減であった。ほぼ目標を達成できたものと考えている。次年度は、新しい学校設定科目「基礎教養」を中心に基礎学力の定着に努めていきたい。(○)</p> <p>イ・生徒向け授業アンケートの内容を大きく変更したため、今年度は満足度を測定できなかった。しかし、若手教員を中心とした勉強会の実施などさまざまな授業改善に取り組み、成果は上がっているものとする。次年度も現在の取組みを継続していきたい。(○)</p>
3 ものづくり教育の充実	<p>(1) ものづくりのための実践的な技術力向上への取り組み</p> <p>ア 各種資格取得や検定試験の推奨と講習の充実</p> <p>(2) 生徒のモチベーションの高揚とものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒の育成</p> <p>イ 成果発表の場やさまざまな競技会などへの生徒の参加、および「ものづくり教室」や「出前授業」の充実</p> <p>(3) 地域への貢献と地域に根ざした学校づくりの推進</p> <p>ウ 起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」のいっそうの推進</p> <p>エ 地域－保護者－学校が一体となった学校づくりの推進</p>	<p>ア・保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。</p> <p>イ・成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。</p> <p>ウ・豊かな創造力や問題解決能力の育成を図るなど、起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」をいっそう推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。</p> <p>エ・本校 P T A と連携しながら、地域貢献を視野に入れた新たな事業に取り組む。</p>	<p>ア・資格の取得者や検定試験の受験者数 (平成 24 年度 1216 人) 及び合格率 (平成 24 年度 61%) の維持</p> <p>イ・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数を 11 回に増加 (平成 24 年度 10 回)</p> <p>ウ・本校主催の「ものづくり人材育成コンソーシアム推進会議」における評価</p> <p>エ・地域貢献をめざした新たな事業の実施</p>	<p>ア・「工科高校の重点化」を先取りし、学校全体で取り組んだ結果、受験者数 (1426 人) は目標を超え、合格率 (61%) は目標を達成することができた。次年度も現在の取組みを継続したい。(○)</p> <p>イ・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計は 11 回となり、目標の 11 回を達成することができた。これらの取組みを実施することによって、生徒のモチベーションを高め、本校のアピールともなるので、次年度も現在の取組みを継続していきたい。(○)</p> <p>ウ・「学校間連携、地域連携事業、地元企業との連携による新商品の開発・製造、国際交流など多岐にわたって取り組み大きな成果を上げるとともに、来年度からは地元企業の協力を得て環境・防災技術の研究にも取り組もうとするなど評価すべき点が多い。」との高い評価をいただいた。(◎)</p> <p>エ・「P T A 工業実習研修」を設立した。溶接の実習を保護者に体験してもらい、非常に好評であった。完成した製作物は地域に寄付していく予定である。(◎)</p>